



大連交通大学 国際文化交流学院 留学生 森野 昭

## ■はじめに

上海には7年前に上海理工大学に日本語教師として赴任したときに一年間過ごしたことがある思い出のある街である。政治都市「北京」に対して、経済都市「上海」は、人口が2,400万人（そのうち外国人や上海戸籍を持たない人が1千万人）もいるといわれている。

今回、日本の友人吉國さんから、以下のようなお誘いがあった。

——「太陽島観光リゾート村」という保養地を一週間予約したので、遊びに来ないか？

そこで、大連から馳せ参じることにした。日本からの同行者は、元会社の友人内本さんで、三人でリゾート村の一軒家に優雅に住み込んで、ここを起点に上海および周辺の観光地を探訪した。

## ■地下鉄が網目のように整備された巨大都市<上海>

我々は6月22日、上海の表玄関「浦東（フートン）空港」で落ち合った。



上海は元々地下鉄が発達していた上に、「上海万博」が開催されたのを機に、更に拡充されており、世界中でも最も地下鉄網が整備された都市の一つといえるだろう。

浦東空港から地下鉄2号線に乗り、一度9号線に乗り換えて「松江大学城」駅で降りた（上図参照）。一見、日本の大学と同名だが、松江（ソンジアン）という土地に8大学のキャンパスが集まっている一大学園都市の地下鉄駅名である。上海の東端「浦東空港」から西端「松江大学城駅」まで二時間半もかかった。二時間半といえば、我が街「大津駅」からJRに乗れば、神戸三ノ宮を越えて更に西まで行ってしまうほどの距離だから、上海が如何に巨大な都市であることが容易に想像されるだろう。

さて、この地下鉄駅におりると、黄誉婷さんが出迎えてくれた。彼女は私が江西師範大学で三年間教師をしていたときの教え子である。大学を卒業後、上海の語学教育の名門校「上海外国語大学」の修士過程に進学し、卒業後そのままその大学に勤務している。



駅ちかくの火鍋料理店でご馳走になった 火鍋料理の鍋（鴛鴦鍋<鴛鴦；オシドリのつがい>）は中央の隔壁で激辛と微辛のスープが分けられている。 <左から>黄、吉國、内本、森野

（右）学生時代の黄さん 十年経つとも変わるものか。今は結婚して一児の母になった彼女の所望で、児童用絵本をプレゼントした。一歳の息子に日本語を教えるという。受験戦争厳しき中国で、彼女は教育ママにヘンシ〜ンしたか。でも料理の腕があがって、ご主人を満足させているかは不明。



その後、タクシーで目指す「太陽島観光リゾート村」へ向かった。リゾート村には、宿泊施設のほか、乗馬場、ゴーカート、ゴルフ場、バーベキュー施設などがあり、1時間かけて、自転車で島内を周遊できる。

## ■ 豫園 (ヨエン)

市内へ行くルートとして、バスに乗って地下鉄「朱家角駅」へ行く方が便利であることが分かった。我々三人は、黄さんともう一人の女性薛 (セツ) さんと、地下鉄駅「豫園」で落ち合った。



豫園の入り口 薛さんは大連の遼寧師範大学英语科の出身で、本年から上海で勤務している。昨年まで二年間、私が日本語を教え、彼女から中国語を学ぶ関係が続いていた。薛さんは清王朝を築いた満州 (女真) 族の子孫、一方、黄さんは戦乱の中原 (長安や洛陽) から南方へと逃れた漢族の子孫 (客家; ハッカ)。

小籠包 豫園は有名な楼閣でしられている上海の観光スポットだが、この名物はなんといっても<小籠包>だ。緑波廊は南翔饅頭店とともに、小籠包の美味しい老舗。

## ■ バーベキュー・パーティ

我々の上海旅行計画を知った元会社の友人渡辺氏が、李香蘭の歌で知られる「蘇州夜曲」の漢訳詩を送ってきた。

そこで吉國さんが、

「では、オレが蘇州夜曲を歌おう」

と言い出した。彼は京都のアマチュア合唱団でテノールの名歌手であると自負している。これに、渡辺氏の翻訳漢詩を中国人の黄誉婷さんに朗詠してもらおう、というおまけまでついた。

かくして今夜のパーティは、単なる飲み食いではなく、文化の香り高い「宴」となった。



自己陶醉気味にテノールを響かせる吉國さんをご覧あれ！

蘇州夜曲は女性の艶やかな声がふさわしい。バスバリトンの内本さんの出る幕が無かったのは残念。

黄さんの夫、倉（倉；ツァン）さんも参加。



## 蘇州夜曲（渡辺かつひろ翻訳漢詩）

## （原歌 西条八十作詩）

### 訳詩

寄郎襟夢聴如睡  
誰吟舟歌啼鳥庇  
花落蘇州水郭春  
柳風方惜啼新翠

流英淑淑逍遙遲  
不識明朝何岸至  
映沚今宵兩人姿  
勿消願影可久遺

桃花君折一枝志  
挿髪又唇愛切思  
朧月二更粧淚珠  
鐘声告時寒山寺

### 日本語訳

きみ むね  
郎の襟に寄りて夢と聴く、睡るが如く  
舟歌は誰か吟ぜん鳥は庇に啼く  
花は落つ 蘇州、水郭の春  
柳風、まさに惜しまん新翠にすすり泣く

はな  
英の流れる水は深く逍遙して遅く  
識らず、明朝何れの岸にか至る  
みぎわ  
沚に映す 今宵、兩人の姿  
消ゆる勿れ、影に願う久しく遺るべしと

桃花、君は折りぬ一枝の志  
髪に挿すか又唇づけむ愛切の思い  
朧月は二更にして涙珠を粧う  
鐘声、時を告ぐる寒山寺

### 原詩

君がみ胸に抱かれて聴くは  
夢の舟歌、鳥のうた  
水の蘇州の花散る春を  
惜しむか柳もすすり泣く

花を浮べて流れる水の  
明日のゆくえは知らねども  
水に映した二人の姿  
消えてくれるな いつまでも

髪にかざろかくちづけしよか  
君が手折りし桃の花  
涙ぐむよな朧の月に  
鐘が鳴ります寒山寺 ☆

☆ 張継の漢詩「楓橋夜泊」をイメージしている

## ■水郷古鎮「朱家角」

「太陽島観光リゾート村」からバスで田舎道を小一時間いくと、地下鉄「朱家角駅」の近くに水郷古鎮がある。私は上海に住んでいたとき、大学主催の慰安旅行でここへ来たことがある。



川に架かる放生橋 (A)、橋の頂上から眺める川 (B)、7年前に同じアングルで撮った川 (C)。昼と夕方との違いがあるものの、その風景がほとんど変わっていなかった。

今日はあの川べりのレストランで昼食を撮ってみたいと思い、橋の上から見定めたレストランへ入った。対岸にも同じようなレストランがあり、風情のあるいい眺めであった。豪華な郷土料理とはいえないが、心地よい川風にあたりながら小一時間を過ごした。

この後、我々は川べりの石畳の小道を散策したが、この日は日曜日人でごったがえしていた。本日より快晴で、天気予報によれば、最低気温 26℃、最高気温 37℃、湿度も高いので汗が噴出。



## ■ 蘇州への一泊旅行

本日は月曜日。内本さんが帰国するが、私と吉國氏はあと数日残ることになっている。バーベキュー・パーティで「蘇州夜曲」を歌ったことがきっかけとなったのか、吉國さんの希望で蘇州へ一泊の旅にでることにした。

ホテルはリゾート村の職員に予約してもらったが、汽車の切符は自分で調達しなければならない。駅の切符売り場に並んで順番がきたとき、中国語だけでは舌足らずになるので、メモを書いて説明することになっている。それと親切そうな中国人の後ろに並んで、助けを求めるのもいい。往路は若い女性に、復路はサラリーマン風の男性（英語を話したので吉國さんが対応）に助けて

もらった。上海—蘇州間は新幹線型高速鉄道で、約30分、片道40元（約700円）だった。

旅装を解くと、まずお目当ての「寒山寺」へ行った。

（二日目は、拙政園という有名な庭園を訪ねたが、吉國さんは寒山寺がお気に入りのようで、楓橋夜泊の掛け軸を買った）

楓橋夜泊の石碑の写真はインターネットのトリップアドバイザー提供



私は寒山寺参観がこれで三度目なのであまり感動はない（70歳以上者は拝観無料だから何度来てもいい!）。鐘楼への立ち入りは金を払わねばならないのでスキップ。有名な張繼作「楓橋夜泊」の石碑の処へいったときのことだった。家族旅行中の小学生らしい少年が石碑を見て、すらすらと朗詠した。それを聞いている母親が我が子を誇らしげに眺めていた。これもよくあることで、中国政府は、漢詩を中華民族が世界に誇るべき文化遺産といちづけており、学校教育で子供に漢詩を朗読させている。それは同時に、家庭で方言を話している子供が小学校に入ると、共通語である「北京普通話」の発音を覚えさせることにもなっている。



江村橋



運河

寒山寺の近くに、風情のある石橋と川があった。このような、川と橋、川べりの遊歩道などは、朱家角と類似している。

なぜ、こうなのか？ じつは上海郊外は長江デルタが広がる水郷地帯なのだ。下の地図を参照されたい。

太古より長江が運び込んだ土砂が河口に一大デルタ地帯を形成させ、所々に湖・沼がのこり、それらをつなぐ川が流れて、水郷地帯ができた。



## 周庄



周庄はかつて、小舟が足代わりとなって、村人同士が往来していたという。美女と一緒に小舟に揺られたら、さぞかしロマンチックだろうな・・・。

## 七宝



七宝は「しっぽう焼き」とは無関係。上海都心に比較的近いところにある。

朱家角、蘇州などはそのような水郷地帯である。今回は訪問しなかったが、「周庄」や「七宝」も同様であり、上の写真で明らかなように、淀んだ濃青色の川、そこに架かる風情のある石橋、そして旅人に旅愁をさそう遊覧船の小舟が行き交う。



蘇州訪問一日目の夜の食事



二日目に名庭園「拙政園」を訪問

## ■ むすび

先に帰国した内本さんが、空港へ行く前にワイタンへ立ち寄ったという。彼が撮った下の写真には、黄浦江の対岸に明珠電子塔が見える。ワイタン、豫園だけでなく上海市中心部には、北京の胡同に似た弄堂（ノントン）のような古風な町並みもあるし、夜の街には遊ぶ所がたくさんある。

今回吉國さんが予約したリゾート村は、上海の中心部から遙かに遠くはなれた郊外にあった。しかしそれが幸いして、水郷地帯を訪れるいい機会ともなった。大都会上海には、意外な別の貌のあることを再認識した。（了）

